

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 30 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2013

課題番号：21520255

研究課題名(和文) ポストモダニズムにおける社会的責任と道徳—新しいユダヤ系アメリカ作家の抵抗

研究課題名(英文) Social and Moral Responsibility in Postmodernism: The Resistance of Postmodern Jewish American Writers

研究代表者

新田 玲子(Nitta, Reiko)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：40180674

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：ポストモダンの作家は、現実の芸術化に過度に傾き、歴史的・社会的関心や道徳的責任が欠如しているとされてきたが、ホロコーストの影響を強く受けたポストモダンのユダヤ系作家は、同様の影響を受けたポストモダンの哲学者が見せる、ホロコーストの悲劇を繰り返さない未来を思考する姿勢と、そのために必要とされる他者意識を共有していることを明らかにした。そして、これらポストモダンユダヤ系アメリカ作家の文字芸術の特徴を精査すると共に、彼らのポストモダンヒューマニズムの特徴を定義した。

研究成果の概要(英文)： Postmodernism is often accused of its political apathy and lack of social and historical awareness. Yet there are some Postmodern Jewish American writers who created their works with the strong sense of otherness, which Postmodern Jewish thinkers regard as indispensable to prevent another Holocaust in the future. This study clarified those Postmodern Jewish American writers' Postmodern Humanism with social and historical awareness and analyzed their original literary arts open to the future and the other.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：アメリカ文学 ユダヤ系作家 ポストモダン ホロコースト ウォルター・アビッシュ レイモンド・フェダマン 戦争 平和

1. 研究開始当初の背景

フレデリック・ジェイムソンは1991年の *Postmodernism, or The Cultural Logic of Late Capitalism* において、ポストモダンでは「現実の『芸術化』」(x)に重きが置かれ、文化そのものは「文字通り『二次的性質』」(ix)に陥り、「歴史性の欠如」(xi)が著しいと主張する。確かに、この指摘は多くのポストモダンのアメリカ作品にも当てはまる。しかしポストモダンに属してはいても、ホロコーストの影響を受けたユダヤ系作家の作品には、歴史的・社会的色彩や、道徳的・倫理的性格の強いものも少なくない。このようなユダヤ系アメリカ作家の一群に特有のポストモダンの性格を分析することは、ポストモダンにおける文学活動の幅が従来考えられてきたよりもずっと幅広いものであることを明らかにするだろう。

ところで、文学活動においてのみならず、哲学分野においても、ポストモダンの活動に同様の広がりを見出すことができる。このようなポストモダンの哲学者は、しばしばホロコーストの影響を受けたり、ホロコーストを強く意識したりしており、ホロコーストのような悲劇を繰り返さないためには何が必要かを思考する、平和の思想家たろうとした。その結果、彼らの哲学においては、ポストモダンの分散、差異、逸脱、周辺性、不確実性、予見不能性も、社会的責任や道徳性と強く結びつき、その哲学は未来と他者に関わった姿勢を明確に打ち出している。

こうした哲学者の思考や世界観・人生観は、歴史性・社会性・道徳性を示すポストモダンのユダヤ系アメリカ作家の作品にも窺えるもので、これらの哲学者が用いる言葉や説明は彼らの作品を読み解く大きな手がかりとなるに違いない。

2. 研究の目的

非政治的・非歴史的態度が非難されること

の多いポストモダンの文学活動においても、歴史的・社会的意識や道徳性・倫理性を明確に示す作家たちがいたことを明らかにする。そしてこの作家たちの背景には共通して、ホロコースト、あるいはそれに準じるような悲惨な戦争体験があり、そうした大きな悲劇が、目に見える形でだけでなく、目に見えない形においても、彼らの著作姿勢に少なからぬ影響を与えていることを精査する。

その際、これらの作家と同様の背景を持つポストモダンのユダヤ系哲学者の思想を学び直し、ホロコーストと直接関わる彼らの思想や思考方法を手がかりに作品分析を進める。そして、戦争やホロコースト体験がポストモダンのユダヤ系アメリカ作家にもたらした新しい世界観や、悲劇を繰り返さないために作家として何をなすべきかという義務や責任を担って彼らが生み出した、平和な未来へ繋がる新しい文字芸術の仕組みを解き明かし、最終的には彼らの文学世界の独自性と、彼らのポストモダンヒューマニズムの性格を定義する。

3. 研究の方法

ホロコーストの影響を直接受けたポストモダンのユダヤ系作家、レイモンド・フェダマンとウォルター・アビッシュの作品分析を足がかりに、彼らを取り巻く他の作家の作品へと分析を広げてゆく。さらに、こうした作品分析と並行し、ホロコーストの影響を強く受けた思想家、テオドル・アドルノ、エマニュエル・レヴィナス、また、ホロコーストを強く意識していたとされるジャック・デリダやテリー・イーグルトンらの思想書、解説書を参考に、ポストモダンにホロコーストが及ぼした影響を調べ、未来において二度とホロコーストのような悲劇を繰り返さないために彼らが必要性を強く訴えた他者への視線について学ぶ。そしてこの未来と他者に関わった姿勢が、フェダマンやアビッシュを初めとするユダヤ系作家の作品におい

て、それぞれの作家が編み出した文学技法とどのように結びつき、どのような効果を挙げているかを詳細に検証する。

なお、本研究成果は基本的に英語論文で仕上げ、国際学会で発表するだけでなく、広く諸国の学者にレビューをもらい、より完成された内容にして国際雑誌に掲載する。

4. 研究成果

ホロコーストの影響を受けたユダヤ系アメリカ作家が、ポストモダンの非政治的・非社会的な文学活動に抵抗し、社会的・道徳的責任を重く受け止め、ポストモダンヒューマニズムと呼べるような性格を持つ作品を生み出していることを明らかにした。

そのうち、ホロコースト作家を自負し、直接ホロコーストを題材にしていたレイモンド・フェダマンの作品では、逸脱、不確実性、予見不能性が絶望的な行き詰まり状態を打破する奥の手として意図的に用いられ、不屈の希望を生み出していること、ホロコーストの影響を受けた思想家の未来に開かれた思索が、逆境を生き延びる力として、前向きで力強い姿勢となって展開していることを示した。ところで本研究のなかで、ホロコースト体験を直接扱ったフェダマンの後期作品を詳細に分析した論文は、英語で口頭公表した際、非常に高い評価を得、同学会に出席していたパリ大学教授の勧めもあり、フランス語に翻訳し、英語版とは別に、このフランス語版をパリ大学のインターネット版雑誌 *Gradiva* を通じて発信した。

さらに、ウォルター・アビッシュの作品についても、ホロコーストの影響を受けた思想家の他者意識を用いた分析を通し、アビッシュの用いる分散、差異、不確実性が、過去の過ちを繰り返さない未来に対する思考を読者に促す、読者と未来に開かれた作品になっていることを証明した。アビッシュ研究のうち、代表作 *How German Is It* を論じた論文は、アメリカにおけるユダヤ文学研究

の代表的雑誌、*Studies in American Jewish Literature* への投稿を勧められ、採用された。また、2013年度にアビッシュ論のまとめとして公表した総論も高く評価され、昨年の The 30th International Conference in Literature- and-Psychology に参加した者から集められた論文のうち、優秀な論文を集めた選集に含まれることが決定し、すでに印刷校正を終えている。

フェダマンとアビッシュ以外にも、ポストモダンの手法を用い、なおかつ歴史的・社会的意識が見出せる作家たちがおり、彼らの作品も順次分析を進めてきた。今後は対象作品をさらに広げるのみならず、こうした作家の作品を相互比較することで、ポストモダンにおける歴史的・社会的意識にも、時代による違いがあることを明らかにしてゆきたい。

なお、本研究における研究成果は広く世界に発信するために英語で公表することを基本としてきた。そして、ユダヤ系作家やホロコースト作家を扱う研究者が多く集う国際学会で論文を公表し、広く意見を募り、議論を交わしてきた。その結果、ホロコーストの影響を受けたポストモダン思想家の未来と他者に開かれた思考が、ユダヤ系アメリカ作家のポストモダンの手法に強く反映しているという私見は、広く支持されうるものであることを実感している。また、こうした文学的特徴は、伝統的なユダヤ性が目立った文学的特徴をなさなくなったとされる1970以降のアメリカのユダヤ系作家の作品において、新たなユダヤ性として再評価できると考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7 件)

1. Reiko NITTA, "A Reconsideration of J. D. Salinger's Work," 『英語学英文学研究』第57巻, 査読有, March 2013, 1-10. <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00034680>

2. 新田玲子, 「逆境を生き延びるユダヤの知恵——ミュージカル『屋根の上のバイオリン弾き』に学ぶ」 *New Wave* 第37巻 通巻430号, 査読有, 2012年8月(全日電材連), 9-21. <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00033353>
3. Reiko NITTA, “Stratégies de l’absence chez Raymond Federman: La Fourrure de ma tante Rachel et Retour au fumier, romans post-modernes de la Shoah,” *Gradiva — Revue Européenne d’Anthropologie Littéraire*, Vol.XII, no 2, 査読有, May 10, 2012. <<http://www.ufr-anglais.univ-paris7.fr/GRADIVA/12-2/05Federman.pdf>>
4. Reiko NITTA, “Walter Abish’s Postmodern Strategies in Double Vision: In Relation to His Humanism and the Holocaust,” *The Hiroshima University Studies Graduate School of Letters*, vol. 71, 査読無, Dec. 2011, 29-42. <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00032607>
5. Reiko NITTA, “Kurt Vonnegut’s Psychological Strategies in Slaughterhouse-Five.” *PsyArt: an Online Journal for the Psychological Study of the Arts*, 査読有, Nov. 18, 2011. <http://www.psyartjournal.com/article/show/nitta-kurt_vonneguts_psychological_strategies_>
6. Reiko NITTA, “Walter Abish’s Deconstruction of the Holocaust in *How German Is It*,” *Studies in American Jewish Literature*, Vol. 30, 査読有, 2011, 60-67. <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00031725>
7. Reiko NITTA, “Raymond Federman’s Strategies of Absence: *Aunt Rachel’s Fur* and *Return to Manure* as Postmodern Holocaust Novels,” 『英語学英文學研究』第55巻, 査読有, March 2011, 31-43. <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00031379>

〔学会発表〕(計 7 件)

1. 新田玲子, 「ウォルター・アビッシュの文学世界」(招待発表), 日本アメリカ文学会関西支部, 2013年9月6日, 立命館大学
2. Reiko NITTA, “Walter Abish and His Literary Art,” The 30th International Conference in Literature-and-Psychology, June 28, 2013, Porto Univ., Portugal
3. Reiko NITTA, “Interpretive Codes and Layered Structures in J. D. Salinger’s Works,” The 29th International Conference in Literature-and-Psychology, July 6, 2012, Ghent Univ., Belgium
4. Reiko NITTA, “Kurt Vonnegut’s Psychological Strategies in *Slaughterhouse-Five*,” The 28th International Conference in Literature-and-Psychology, June 25, 2011, Roskilde Univ., Denmark
5. Reiko NITTA, “Walter Abish’s Postmodern Humanism and Its Relation to the Holocaust: In the Analysis of Double Vision,” American Literature Association’s Jewish American and Holocaust Literature Symposium, Nov. 10, 2010, Florida, U.S.A.
6. Reiko NITTA, “Raymond Federman’s Strategies of Absence: *Aunt Rachel’s Fur* and *Return to Manure* as Postmodern, Holocaust Novels,” June 26, 2010, The 27th International Conference in Literature-and-Psychology, Pécs Univ., Hungary
7. Reiko NITTA, “Walter Abish’s Deconstruction of the Holocaust in *How German Is It*,” July 4, 2009, The 26th International Conference in Literature-and-Psychology, Viterbo, Italy

〔図書〕(計 5 件)

1. Reiko NITTA, *PSYART*. Ed. Diniz Cayolla Ribeiro. Porto: Universidade do Porto, June 2014. “Walter Abish and His

Literary Arts,” 83-94. (現在印刷中)

2. 新田玲子, 『カウンターナラティブから語るアメリカ文学』(編著)伊藤詔子監修, 新田玲子編, 2012年10月10日, 音羽書房鶴見書店, 378頁, 「語りえない 出来事を語る——フェダマンとアビッシュのポストモダン・ホロコースト文学」344-61, 「あとがき」363-68.

3. 新田玲子, 『笑いとユーモアのユダヤ文学』(共著)広瀬佳司, 佐川和茂, 大場昌子編, 2012年3月, 南雲堂, 282頁, 「逆境を生き延びる力——レイモンド・フェダマンの笑い」164-79.

4. Reiko NITTA, *Literature and Psychoanalysis: Proceedings of the Twenty-Sixth International Conference on Literature and Psychoanalysis*. Ed. Frederico Pereira. *Literature and Psychoanalysis*: Lisbon: Instituto Superior de Psicologia Aplicada, 2010. “Walter Abish’s Deconstruction of the Holocaust in *How German Is It*,” 139-44.

5. Reiko NITTA, *Literature and Psychoanalysis: Proceedings of the Twenty-Fifth International Conference on Literature and Psychoanalysis*. Ed. by Frederico Pereira. Lisbon: Instituto Superior de Psicologia Aplicada, 2009. “Paul Auster’s New Jewishness in the USA: *An Analysis of The Invention of Solitude*,” 211-14.

〔その他〕

新田玲子私設ホームページ:

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/reinitta/>

新田玲子学術リポジトリページ

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/meta-bin/mt-pmtlist.cgi>

6. 研究組織

(1)研究代表者

新田 玲子 (NITTA REIKO)

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号: 4 0 1 8 0 6 7 4